

令和元年度 第1回 千葉県認知症対策推進協議会及び作業部会 議事概要

開催日時：令和元年7月30日（火） 午後2時30分から午後4時まで

会 場：プラザ菜の花 4階 楨1・2

出席者：協議会・作業部会委員31名、関係課・事務局職員等10名

計41名（欠席委員1名）

あいさつ：渡辺 健康福祉部保健医療担当部長

議 題：

- （1）今年度の予定について
- （2）令和元年度認知症施策について
- （3）平成30年度及び平成31年度当初 市町村における認知症施策に関するアンケート結果について
- （4）認知症施策推進大綱について
- （5）その他

配布資料

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料1 今年度の開催予定について
- ・ 資料2 令和元年度 認知症施策について
- ・ 資料3－1 平成30年度及び平成31年度当初市町村における認知症施策に関するアンケート結果の概要
- ・ 資料3－2 平成30年度及び平成31年度当初市町村における認知症施策に関するアンケート結果
- ・ 資料3－3 認知症予防に関するアンケート結果の概要
- ・ 資料3－4 認知症予防に関するアンケート
- ・ 資料3－5 認知症カフェに関するアンケート結果の概要

- ・資料 3－6 認知症カフェに関するアンケート
- ・資料 3－7 市民後見人に関するアンケート結果の概要
- ・資料 3－8 市民後見人に関するアンケート
- ・資料 4－1 認知症施策推進関係閣僚会議
- ・資料 4－2 認知症施策推進大綱 施策整理表
- ・認知症対策推進協議会設置要綱
- ・「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書（2019 年版）」
- ・「2019 年世界アルツハイマーデー記念講演会」

「議題 1（今年度の予定について）」

事務局から説明」

（特に意見なし）

「議題 2（令和元年度認知症施策について）」

事務局から説明」

【細井委員（袖ヶ浦さつき台病院 認知症疾患医療センター）】

本年 3 月に開催された平成 30 年度第 2 回千葉県認知症対策推進協議会のときにも指摘したが、資料 2 の 14 番の市民後見推進事業は、昨年度も 2 千万円近い予算が計上されていたが、今年の 3 月の時点で、千葉県の市民後見人が 26 名しかいない。養成研修のための事業費にこれだけ大きなお金が動いているが、実際には研修はどの程度行われていて、どれくらいの方が受けているのか。

市民後見人が中々任命されないのは、裁判所が慎重に判断しているところもあるのだろうが、県では、養成研修をどれくらい把握しているのか。

【事務局】

実績については、毎年、市町村にアンケート調査をしていて、どれくらい養成研修をした

のか、把握している。

養成研修を実施した市町村数については、昨年度は、11市が養成研修をやっており、今年度は、12市が申請している。

【伊豫会長（千葉大学大学院医学研究院）】

細井委員の意見は、予算規模の割に市民後見人が増えないのではないかとということだと思  
うのだが。

【事務局】

市民後見人の養成研修は、市町村が実施しているが、選任人数となるとかなり少ない。平  
成30年度だけで、選任人数は10人と聞いている。

【事務局】

補助率が4分の3と高いということもあり、予算額が大きくなっている面もある。11、12  
の市町村で研修が実施されているが、実際には、先ほどの細井委員の御指摘のとおり、中々、  
市民後見人として選任されていないという事情もある。この事業が有効になるように努め  
てまいりたい。

【細井委員（袖ヶ浦さつき台病院 認知症疾患医療センター）】

この予算を養成研修の補助だけに使うということが、私としては疑問で、研修だけでなく、  
サポートなど、いかに市民後見人を増やすかが重要だと思う。特に、市民後見人のサポー  
トについては、市町村社会福祉協議会によって非常に温度差があると思う。このため、市  
町村社会福祉協議会への働きかけや、あるいは裁判所に対する働きかけ、市民後見の推進  
について話し合う場所を作るなど、そういったことも併せて、推進事業として検討いただ  
ければと思う。

【事務局】

検討させていただきたい。

「議題3（「平成30年度及び平成31年度当初 市町村における認知症施策に関するアンケート結果について）

事務局が説明」

【津金澤委員（千葉県在宅サービス事業者協議会）】

アンケートの結果、各取組について、やっている、やっていないというのが良く分かった。今度は、その次の段階として、やっているのであれば、どれくらいのクオリティなのかということを知りたい。例えば、防災無線をやっている市町村を例にすると、防災無線をやっていることは非常に進んでいると思うが、ある市町村では、数年前までは、徘徊で行方不明になってから防災無線がなるまで3時間かかった。徘徊高齢者は、3時間もたつと亡くなってしまう恐れがある。このように、やっても効果が無いということも実際にはあると思う。そういった、クオリティの部分が分かるような結果だと良いと思う。

【事務局】

評価をどのようにするのかというのはあると思うが、考えていきたい。

「議題4（認知症施策推進大綱について）

事務局から説明」

【安西委員（一般社団法人ちば地域密着ケア協議会）】

先ほどの国の大綱の説明の中で、認知症カフェが増えていないという話があり、千葉県の市町村アンケートの報告でも、民間団体独自で認知症カフェをやっているのが27、民間団体への補助が20、市町村主催が16ということで、民間団体独自でやっている件数が圧倒的に多い。認知症カフェをやっている人たちから話を聞くと、認知症カフェの運営は、介護職員など認知症に興味のある方が、行政の補助を受けずにボランティアでやっているとのことだった。これは、行政の補助金は手続きが煩雑で縛りがあるので、民間団体独自でやっている数値が一番多いのではないかと思った。このため、例えば、「金銭的に補助をしても、もう少し自由に活動しても良い」というようなスタンスで補助できないか。認知症

カフェをやりたい人や、必要性を感じている人がたくさんいると思うが、補助金に縛りがあるため、件数が伸びないのではないかと感じている。

【伊豫会長（千葉大学大学院医学研究院）】

実際、そういう意見はあるのか。

【事務局】

まず、認知症カフェの件数をカウントするにあたり、民間でやっているものも計上できるということがある。そして、行政であれ、民間であれ、認知症カフェの全市町村への設置を進めるというスタンスがある。支援が足かせになるという事情もあるのかもしれないが、市町村とも協働して、認知症カフェの数を増やしていけるよう、県としても支援してまいりたいと思っている。

【横山委員（一般社団法人千葉県作業療法士会）】

認知症カフェの話が出たのだが、認知症サポーター養成講座に関しても課題がある。私も市川市で認知症サポーター養成講座を開催することが多いのだが、サポーター養成講座の開催希望など、需要はたくさんある。小学校、中学校、企業など、開催希望は多いが、実際に講師としてキャラバン・メイトを集めると、何人もいない。キャラバン・メイト全体では、かなりいるはずなのに、実際に活動しているキャラバン・メイトは10パーセントくらいしかいないようだ。これは、キャラバン・メイトそのものがボランティアで成り立っているというところと、講師役として最初に踏み出すことが大変だからだと思う。実際に活動しているキャラバン・メイトに限られているという現状は、多分、ほかの市町村も同じだと思うので、キャラバン・メイトをどうやって発掘していくのか、もしくはサポートしていくのか、市町村だけでなく全体で考えていく必要があると思う。一部の頑張っているキャラバン・メイトばかりが疲弊していくような状況にならないよう、サポート体制などを考えていただければと思う。

【事務局】

養成研修を受講しても活動していないキャラバン・メイトが多いということは、県として

も把握しており、まずは、養成の申し込みの段階から、意欲の高い方を応募するよう市町村にはお願いしているところである。また、キャラバン・メイトの活動に当たっては、養成研修だけでは中々活動に結びつかないところもあるので、県では、キャラバン・メイトスキルアップ研修などを実施して、キャラバン・メイトの資質の向上に努めていきたいと考えている。

【伊豫会長（千葉大学大学院医学研究院）】

大綱にある「大使」とは、具体的にどのようなものを想定しているのか。

【事務局】

「キャラバン・メイト大使」については、認知症の人本人がキャラバン・メイトの応援者となるものである。実は、国からは具体的な説明が無いのだが、大綱を読んで考えられるものとしては、「キャラバン・メイト大使」については、認知症本人の方が、キャラバン・メイトの応援者として、例えば、サポーター養成講座でキャラバン・メイトに同行して、本人としての考え方や気持ちを伝える役割ということが想定される。

【松川委員（一般社団法人千葉県理学療法士会）】

先ほど、キャラバン・メイトの話があったが、キャラバン・メイト登録の関係で、キャラバン・メイト連絡協議会に一回登録すると、辞める時に、二度と登録できないようだ。例えば、「二度とやりません」という署名したものを出さなければならず、休止はできない。それで、結局、活動していないキャラバン・メイトが多い。実際に活動しているキャラバン・メイトは、各市町村が独自に登録するという形で管理していかなければいけないという現状があり、おそらくどこの市町村も困っているところがあると思うので、例えば、県の方で全国キャラバン・メイト連絡協議会と調整するなどしていただければ、ありがたいと思う。それが一点。

もう一点は、認知症の人本人についてだが、この資料4-2の下の方にもあるが、本人同士による相談、活動、本人の活躍の部分で、埼玉県の大宮の方にある家族会では、認知症ご本人の方を相談のメンバーとして入れている。そこでは、認知症本人が、相談を受け、本人同士で話し合ったり、また、訪問支援を行ったりしており、非常に参考になると思う。

【事務局】

今、松川委員の話にもあったように、この大綱の中には、認知症の人本人の発信支援というものもあって、認知症本人大使というものもある。

現在、家族の会にも色々と協力いただきながら実施している家族交流会のように、相談支援として認知症の人本人に協力をいただくものも少なくはないのだが、今後、色々と検討してまいりたい。

「議題5 その他」

【事務局】

「その他」については、家族の会の廣岡委員から2点あるので、説明をお願いしたい。

【廣岡委員（公益社団法人認知症の人と家族の会千葉県支部）】

今日、配らせていただいたものが二つある。

一つは、「認知症の人も家族も安心して暮らせる要望書」。これは、これまで、家族の会では厚労省に要望書を出していたのだが、今年の3月に、初めて、内閣府をはじめ全省庁に要望書を持参して、説明をした。是非、目を通していただければと思う。

二つ目の資料は、今日の認知症施策推進大綱の資料4-2の7つ目のところに出ている、世界アルツハイマーデーに関連したイベントで、これが家族の会の一つの大きなイベントになっている。毎年、色々なところで、講師の先生方を呼んで実施しており、ぜひ皆さんにお知らせしたいと思って、持参した。最近では、流山市や浦安市、香取市など、色々な市町村で、9月にそれぞれイベントをやってくださっている。ただ、私達は、1県1支部という単位なので、中々広く手が回らない。ここ何年かは、津田沼駅前と千葉駅前で実施しており、県職員、市の職員、それから保健医療大学の学生などに来ていただいて、三つ折りのリーフレットを配っている。色々なところに、このリーフレットを配布するので、是非、御協力をお願いしたい。

【伊豫会長（千葉大学大学院医学研究院）】

最後に、本日の会議を通して、何か意見はどうか。

【旭委員（旭神経内科リハビリテーション病院）】

認知症の施策が、中々末端まで浸透しておらず、非常に難しいことを改めて感じた。私は県のこの会議に約10年間、松戸市では認知症施策に20年間、それぞれ関わってきたのだが、感じるのは、市町村が本気になってやれば、かなり良い施策ができるのだが、千葉県内を見ても市町村ごとに濃淡があるということだ。モデル事業を実施した市町村や、この協議会に入っている市はかなり進んでいるのだが、例えば、東葛北部圏域で認知症疾患医療センターとして関わっていて、ある市は、上手くいきそうと思いつつも、中々、上手くいかないことが現状として多い。ここで協議されたことが、市町村の現場の人たちに上手く繋げていけるような方法を講じることが、急務だと思う。施策は、新しいものが次々に出てくるが、やはり、中々、市町村まで浸透していない。今度、作業部会でも、このあたりの実際的な施策をどうしていくかということ、忌憚のない意見を出しあっていたい。市町村でも、現場で、認知症施策を何とかしなければいけないという意識はかなり高まってきていると思うのだが、現場が余りにも忙しいのに次々と施策が出てきて、どれをやったら良いのか分からないような状況になっていると思う。これは千葉県だけの問題ではないと思う。私は、東北の震災の地域での支援に関わらせていただいているが、そこで思ったのは、やはり、市町村がその気になればかなり進むのに、中々、そこが進まない。千葉県には、この協議会の皆様のご意見を踏まえながら、市町村で進められるような施策を少しでも前進させていただければと思う。

以上